

## 令和5年度体験活動普及啓発事業

### チアフルデー ～吉備の森感謝でえ～

#### 1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

親子で自然体験活動を楽しむことで、親子のふれあいの大切さを感じたり、他の家族との交流を深めたりすることをねらいとする。

子供の健やかな成長に体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高めることを目的とする。

#### 2. 事業の概要

##### (1) 期日

前夜祭：令和5年10月28日（土）～10月29日（日）1泊2日

本祭：令和5年10月29日（日）日帰り

##### (2) 参加者

###### ① 募集対象・人数

一般（幼児から大人まで）400人（前夜祭80人、本祭320人）

###### ② 参加人数

前夜祭21家族（63人） 本祭20家族（76人）

##### (3) 講師等

森 結希 氏（絵本専門士）

岡山県キャンプ協会 指導員

日本ボーイスカウト岡山連盟 指導員

岡山県青少年教育センター閑谷学校 指導員

日本防災士機構岡山県支部 防災士

国立吉備青少年自然の家 外部研修指導員

##### (4) 企画・運営のポイント

- ① 前夜祭からの参加者には、活動時間に余裕を持たせたり、2班に分けて夜の活動を行ったりすることで、家族同士が交流する時間を取りやすくした。
- ② 防災教育の観点から日本防災士機構岡山県支部にブースを出展していただき、親子で防災に対して学ぶ機会の提供を行った。
- ③ 不審者対応として参加者がであることが一目で分かるようにリストバンドを配付した。
- ④ 岡山県内の様々な団体や青少年教育施設との連携を図った。
- ⑤ そとチャレラリーをブースのひとつに取り入れて最高4か所スタンプを押せるようにした。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程

10月28日(土) 前夜祭	
16:00	受付(玄関)
16:30	開会行事
16:45	入室、就寝準備(宿泊室)
17:30	夕食(レストラン)
18:30	選択活動 ①絵本読み聞かせ(ふれあいホール) ②天体観察(天体観察棟)
20:00	入浴(生活関連棟)・休憩(宿泊室)
22:00	就寝(宿泊室)
10月29日(日) チアフルデー	
6:45	起床・洗面・清掃・荷物移動(宿泊室)
8:00	朝食(レストラン)
ここまでが前夜祭	
9:00	受付
9:30	チアフルデー ① カッター活動(鳴滝湖) ② 樹木ビンゴ ③ フィールドアスレチック(ウーリーのぼうけんひろば) ④ おもしろ自転車(つどいの広場) ⑤ 遊びリンピック(プレイホール) ⑥ 勾玉づくりに挑戦!(オリエンテーション室) ⑦ 新聞紙で作る防災スリッパ・容器(ふれあいホール) ⑧ 絵本広場(グリーンルーム) ⑨ 木のキーホルダー(学習室2) ⑩ カプラ&ペタンク(プレイホール) ⑪ クラフト(学習室3) ⑫ 缶バッジを作ってみよう!(プレイホール) ⑬ そとチャレラリー(玄関) ⑭ 授乳室+ちびっ子ルーム(学習室1) ⑮ キッチンカー(中広場)
15:00	終了・解散

(2) 活動の状況



【前夜祭・開会行事】



【前夜祭・天体観察①】



【前夜祭・天体観察②】



【前夜祭・絵本読み聞かせ①】



【前夜祭・絵本読み聞かせ②】



【前夜祭・絵本読み聞かせ(工作)③】



【おもしろ自転車①】



【おもしろ自転車②】



【そとチャレラリー】



【ちびっ子ルーム】



【フィールドアスレチック①】



【フィールドアスレチック②】



【カプラ①】



【カプラ②】



【勾玉づくりに挑戦！①】



【勾玉づくりに挑戦！②】



【新聞紙で作る防災スリッパ・容器】



【木のキーホルダー】



【遊びリンピック①】



【遊びリンピック②】



【樹木ビンゴ】



【缶バッジを作ってみよう!】



【カッター活動①】



【カッター活動②】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

前夜祭：満足 77% やや満足 15% 無回答 8%

本祭：満足 88% やや満足：12%

##### (2) 参加者の声

- ① 前夜祭の絵本の読み聞かせは、工作もできて楽しかった。
- ② 前夜祭の天体観察は、月、土星、木星がとてもきれいに見えた。
- ③ 自然に親しむ様々な活動があり良かった。
- ④ カッター活動は疲れたが、みんなで協力することの大切さが感じられた。

##### (3) 成果

- ① 前夜祭は、普段家族単位では利用しにくいプログラムとして、絵本の読み聞かせ（工作含む）と天体観察を入れた。
- ② 他の社会教育団体や岡山県内の青少年教育施設にも出展ブースを出してもらい連携を図ることができた。
- ③ 防災教育の観点から日本防災士機構岡山県支部に出展ブースを出してもらい防災について親子で学ぶ機会を作ることができた。
- ④ 前夜祭からの参加者には、活動時間に余裕を持たせたり、2班に分けて夜の活動を行ったりすることで、家族同士が交流する時間を取りやすくした。

##### (4) 今後の課題

- ① 本年度は体験活動普及月間である10月に事業の実施を行ったが、秋祭りや岡山県内で実施される他のイベントと重なっていたので開催時期を検討する必要がある。
- ② カッター活動で午前と午後の2回を計画したが希望者が集まらず午前だけとした。次年度について2回の実施がふさわしいのか検討が必要である。
- ③ ブース出展してもらおう団体について出展団体と連絡や打合せに時間がかかったので搬入から搬出までのことや、事前準備、当日準備などの流れが一目でわかるように資料等を作成しておく必要がある。

担当：主任企画指導専門職 河本 潤

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

吉備の森 自然体験会

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

当施設での宿泊を体験し、施設を知ってもらうとともに自然素材を利用したクラフトなどの活動を通し、自然に対する感性や探求心を高める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年12月15日（金）～12月16日（土）1泊2日

(2) 参加者

① 参加対象・人数

幼児・小学生とその家族 10家族・30人程度

② 参加者

6家族・18人

(3) 講師等

石原 恵以子 氏（絵本専門士）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 天体観測の実施において天候をこまめにチェックし、荒天の可能性が高いと判断して絵本専門士による読み聞かせに切り替えた。
- ② クリスマスリースづくりでは、自然物を探す時間を十分に取ったうえで飾りとして使えるものを用意して選択できるようにした。また、開催要項にも飾りたい材料を事前に持って来て良いことを記載した。
- ③ 初日の様子を見て、野外炊事のグループを参加者主体で決めるようにした。
- ④ 野外炊事では、参加者の年齢を考慮してポトフからビーフシチューに変更した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

12月15日（金）		12月16日（土）	
18:00	受付	6:45	起床・清掃・点検
19:30	絵本の読み聞かせ	8:00	朝食
20:30	入浴	9:00	清掃
22:30	就寝	9:30	お部屋点検
		10:00	クラフト材料集め
		11:00	野外炊事
		13:30	クラフト (クリスマスリースづくり)
		15:00	解散

## (2) 活動の状況



【絵本の読み聞かせ①】



【絵本の読み聞かせ②(工作)】



【クラフト材料集め】



【クラフト材料集め②】



【野外炊事①】



【野外炊事②】



【クラフト①】



【クラフト②】



#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：100%

##### (2) 参加者の声

- ①このような企画がもう少し増えて、参加しやすくなったらありがたいです。
- ②自分たちがいろいろ動いてすることがたくさん楽しかった。
- ③天候の関係で天体観測ができなかったので、ぜひやりたいです。

##### (3) 成果

- ① 天体観測の時の荒天時には職員による読み聞かせを予定していた。しかし、事前の天気予報から当日は星が見えない可能性が高かった。そこで、早めの判断をして専門性の高い絵本専門士に講師依頼をした。質の高い絵本の読み聞かせ、手遊び、工作と参加者にとって良い時間となった。当日は曇り空で星を見ることができなかったこともあり、今回の判断は良かったと考える。
- ② クリスマスリース作りでは、自然と触れ合うことができるようにするために、材料を探しの時間を十分に設けた。しかし、雨で自然物が濡れていたり参加者が思うような物が見つからなかったりすることを想定し、飾りとして使える物を用意して選択できるようにした。また、開催要項にも飾りたい材料を事前に持って来て良いことを記載し、意欲が高まるようにした。選択肢を増やすことで、多くの参加者が想像力を働かせながらクラフトを行うことができた。
- ③ 初日を終えて感じたことは、参加者の仲の良さであった。子供同士が積極的に関わり合い、大人は温かく見守り自分の子供でなくても進んで声をかけていた。そのような実態から、野外炊事では事前に決めていたグループでなく、席に着いたテーブルごとに調理を行った。どのグループでも協力し、笑顔で食事をすることができていた。
- ④ 野外炊事の事前研修を職員で行った。ポトフもおおいしかったが「薄味である」「野菜が大きい」ということが話題に上がり、小さい子にとってもっと食べやすいものがあるのではないかと再考する機会になった。その結果、ビーフシチューに変更した。当日は、小学生はおかわりをし、未就学児も残さず食べていて残量なく終えることができた。

##### (4) 今後の課題

- ① 上記のように、天体観測については早めの中止を決断した。今回はそれでよかったと思うが、アンケートには天体観測を希望する記述が複数あった。また、中止についての事前メールを送ったことにより、兄弟に中学生の参加者がいる家庭からはキャンセルの連絡が一件あった。天候のことは仕方がないが、そのような利用者の思いを大切にし、今回の情報を他の教育事業にもつなげたり家族での利用をうながしたりして天体観測をする機会を作れるようにしたい。

- ② クリスマスリースづくりでは、所内のツタを活用した。事前に下見をして、残りが少なくなっていることが気がりであったが、今回は行うことができた。作り終わった後に参加者はとても満足そうであり、今後も行いたい活動プログラムであるが、材料確保についての課題に対する解決策を考えていきたい。

担当：企画指導専門職 八木 雄治

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

新春！親子で書道体験～日本の正月文化も楽しもう！～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

日本の伝統文化の一つである「書」活動について、青少年の文化体験活動の裾野をより広げるとともに、「書」自体を楽しむ活動を通して、「書」に親しみをもつ。また、書道以外にもお正月の昔遊びを通して日本の伝統文化に触れる機会を設ける。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年1月6日（土）～1月7日（日）1泊2日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学生とその家族・10家族30人程度

② 参加人数

8家族20人

(3) 講師等

1日目 岡山県立矢掛高等学校書道部

(4) 企画・運営のポイント

- ① 岡山県立矢掛高等学校書道部に講師として来ていただき、書道パフォーマンスを鑑賞して、書初め指導を受けることで、書道への関心を深めてもらうようにした。
- ② 書初めでは、各自で持参した習字道具で自由に文字を書くことに加え、書道部が使用している大きな筆と半紙を使う体験を選択できるようにすることで、体験の幅を広げた。
- ③ 正月遊びの活動では福笑い、かるた・百人一首、すごろく、こま回し、けん玉の5つのブースを作り、活動時間中に時間を区切ることなくすることで、自分の興味のあるブースに参加できるようにした。
- ④ 2日目が1月7日の七草がゆの日であることから、食育の機会として有効であると考え、野外炊事で七草がゆを作ることにした。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程

1月6日(土)		1月7日(日)	
13:30	J R岡山駅西口バス送迎(希望者)	6:45	起床・清掃
14:30	受付	7:30	宿泊室点検
15:00	開会式	7:45	朝のつどい
15:30	書道パフォーマンス 書初め体験	8:00	朝食
17:30	休憩・寝具説明	9:00	野外炊事(七草がゆ・豚汁)
18:00	夕食	13:00	閉会式
19:00	お正月遊び	13:30	解散 J R岡山駅西口バス送迎(希望者)
20:00	入浴		
21:00	就寝準備		
22:00	就寝		

#### (2) 活動の状況



【書道パフォーマンス①】



【書道パフォーマンス②】



【書初め体験①】



【書初め体験②】



【正月遊び①】



【正月遊び②】



【お正月遊び③】



【野外炊事】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：100%

##### (2) 参加者の声

- ① 正月文化を楽しめる盛りだくさんのプログラムで、本当に充実した二日間となりました。
- ② 書道パフォーマンスを目の前で見せて頂き、感動しました。その後の書道でも、字の書き方をお姉さんたちが丁寧に教えて下さり、楽しみながらできました。
- ③ 大きな半紙で書かせて頂くことができ、普段、習字を習っていてもなかなかできない体験をさせてもらえて来た甲斐がありました。
- ④ なかなか家族で正月遊びをしないので、良い機会になった。
- ⑤ 野外炊事で他のファミリーと一緒に協力し、おいしい七草がゆと豚汁を作ることができました。
- ⑥ 人見知りのわが子でしたが、参加する中で一人で行動できることが増え、二日の中でも成長が見られました。

##### (3) 成果

- ① 岡山県立矢掛高等学校書道部による書道パフォーマンスは、今年度も好評であった。顧問の先生のご厚意により、大きな筆と半紙を貸していただいた。普段できない体験ということもあり、大人が積極的に筆を執り夢中になっていた。そこから子供にも波及し、多くの参加者が体験していた。書道部の生徒による個別の指導も好評で、参加者の書の技能的な向上に加え、良好な人間関係が築かれていった。

- ② 正月遊びの際には導入を工夫し、「やってみたい」という思いを喚起する話や言葉かけをして、楽しい雰囲気ですスタートすることができた。その結果、複数の家族や法人ボランティアとの交流が生まれ、大人数で遊ぶ姿が見られた。
- ③ 野外炊事において計画当初は七草がゆだけであったが、事前研修をしていく中で子供たちにとって食べやすい物の方が良いという意見が出た。豚汁を作ることになると残量はほとんどなく、参加者からも「七草がゆだけでなく豚汁があったので良かった。」という声があった。

#### (4) 今後の課題

正月遊びの種類を増やしても良いと感じた。参加者の様子を見て、今回用意した遊びは決して珍しくはないが、普段はなかなか遊ぶ機会がないと感じた。今回の遊びに加え、羽子板、お手玉、めんこなど体を動かす遊びがあると、より一層楽しい体験をできたと思う。

担当：企画指導専門職 八木 雄治

**令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業  
「キビキビ通学合宿」**

**1. 事業の目的（趣旨・ねらい）**

家庭から離れた共同生活の中で、様々な生活体験活動を通して、「生きる力」の基盤となる豊かな人間性や人間関係能力を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上を図る。また、森林について学ぶ活動、森林の中での体験活動を通して、多面的・総合的なものの見方や思考力を育む。

**2. 事業の概要**

**(1) 期日**

令和6年2月13日（火）～2月17日（土）4泊5日

**(2) 参加者**

① 事業対象・人数

吉備中央町内の小学3年生～6年生 24人

② 参加人数

23人

**(3) 企画・運営のポイント**

- ① 合宿のテーマを「早寝早起き朝ごはん」とし、規則正しい就寝・起床のリズムを友達と揃えることに加え、洗濯や洗い物も自分たちで行うことで、日々の生活の中での準備・片付けの大変さを知るとともに、家族への感謝の気持ちを培うようにした。
- ② 班編成の際に学校および学年を分散させることで、他校の児童とふれあう機会を創出した。
- ③ 昨年度までの交流中心のプログラムから変更し、森林環境教育を取り入れた活動を組み込んだ。森の役割や森と自分たちの生活とのつながりについてグループワークを通して学んだあと、秘密基地の計画づくりや、実際に秘密基地づくりを行った。

**3. 活動の内容等**

**(1) 日程**

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
1日目 2月13日(火)	学校											キビ キビ 宿題 タイム	開 会 式	夕 食	キビ キビ 交流 タイム	キビ キビ 交流 タイム	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝
2日目 2月14日(水)	起 床 ・ 清 掃	洗 面	朝 の 会	朝 食	登 校	学校						キビ キビ 宿題 タイム	夕 食	森 に つ い て 知 ろ う !	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝		
3日目 2月15日(木)	起 床 ・ 清 掃	洗 面	朝 の 会	朝 食	登 校	学校						キビ キビ 宿題 タイム	夕 食	ど ん な 秘 密 基 地 を つ く る ?	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝		
4日目 2月16日(金)	起 床 ・ 清 掃	洗 面	朝 の 会	朝 食	登 校	学校						キビ キビ 宿題 タイム	夕 食	ロ ー プ ワ ー ク に チ ャ レ ン ジ !	入浴	班 会	就 寝 準 備	就 寝		
5日目 2月17日(土)	起 床 ・ 清 掃	洗 面	朝 の 会	朝 食	点 検	秘 密 基 地 づ く り に チ ャ レ ン ジ !	秘 密 基 地 で の ん び り 食 事	ふ り か え り 片 付 け	閉 会 式											

(2) 活動の状況



【オリエンテーション】



【キビキビ交流タイム】



【キビキビ宿題タイム①】



【キビキビ宿題タイム②】



【夕食】



【下校】



【森について知ろう】



【ラジオ体操】





【洗い物】



【登校】



【どんな秘密基地をつくる？】



【ロープワーク】



【秘密基地づくり①】



【秘密基地づくり②】



【秘密基地でのんびり食事】



【閉会式での発表】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：64% やや満足：29% やや不満：7%

##### (2) 参加者の声

- ① 森の大切さと仲間との時間が大切だということが分かった。仲間と協力すれば秘密基地などいろいろな事が出来るんだと分かった
- ② 森にはいろんな役割があることが分かった。
- ③ 自分のことは自分ですということがとても大変だと知った。
- ④ 自分のことは自分ですることや、友達とコミュニケーションをとること、助け合うことが大事だと感じた。災害の時に身を守るための事も知れた。

##### (3) 成果

- ① 宿題タイムでははじめはなかなか集中できず、喋ってしまう参加者も見られたが、2日目からは宿題用の部屋を複数準備したり、宿題が終わった参加者のための部屋を用意したりし、集中して取り組める環境を設け、少しずつ早く終わるようになった。
- ② 宿泊棟にホワイトボードを設置し、夜や朝に取り組むことを提示しておくことで、子供たちが自分で時間を意識して取り組むことができた。
- ③ 夜の活動では、はじめはボランティアや職員が入って進めていたグループワークも、数日間取り組むうちに子供たちだけで話し合ったり、工夫したりする様子が見られた。
- ④ 森林環境教育を取り入れ、森の役割や森と自分たちの生活とのつながりについてグループワークを通して学んだあと、秘密基地の計画づくりや、実際に秘密基地づくりを行った。一連の流れを通して、秘密基地作りの中でもゴミを落とさないように気を付けたり、秘密基地づくりと森の役割の繋がりについて考える様子が見られた。

##### (4) 今後の課題

初日は宿題に時間がかかったため交流タイムがほとんど取れず、初めて顔を合わせる参加者には心理的な負担の大きいものとなってしまった。今回は2日目以降に交流タイムを多めに入れて対応したが、下校時間などを踏まえて開催日程の設定をする必要がある。

担当：企画指導専門職付 角田 怜那

## 1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

経済的な事情などで、子供たちに体験をする機会が与えられていないひとり親家庭を対象に、吉備の自然を生かした活動や体験活動を行い、ひとり親家庭での体験活動を支える。

## 2. 事業の概要

### （1）期日

第1回 令和5年8月6日（日）日帰り

第2回 令和5年11月18日（土）～11月19日（日）1泊2日

### （2）参加者

#### ① 募集対象・人数

岡山県内の幼児（未就学の4～6歳児）とその家族 8家族30人程度

#### ② 参加人数

ア. 第1回 4家族12人

イ. 第2回 8家族18人

### （3）連携機関

① NPO法人チャリティーサンタ（岡山市）

② 子どもソーシャルワークセンターつばさ（倉敷市）

③ 岡山市岡山っ子育成局子育て支援部こども福祉課岡山市ひとり親家庭福祉会

### （4）講師

第2回 黒田 幸保 氏（日本キッズコーチング協会）

中村 史恵 氏（絵本専門士）

### （5）企画・運営のポイント

① 対象を幼児に限定することで、幼児に特化した活動を展開するようにした。

② 例年同様、参加費無料、無料バス送迎を行い、保護者の負担軽減に努めた。

③ 一般募集はせずに、ひとり親家庭や貧困家庭の支援に取り組んでいる行政やNPO団体と連携し、対象の家庭に直接案内が届くように広報協力を依頼した。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程

##### ① 第1回 令和5年8月6日(日) 日帰り

8月6日(日)	
9:30	受付
10:00	開会式・アイスブレイク
10:45	川遊び
12:30	昼食(レストラン)
13:30	遊びリンピック(保護者交流会)
15:15	閉会式
15:30	解散・バス送り

##### ② 第2回 令和5年11月18日(土)～11月19日(日) 1泊2日

11月18日(土)		11月19日(日)	
10:30	受付	6:45	起床・洗面・掃除
11:00	開会式	8:00	朝食(レストラン)
11:15	アイスブレイク	9:00	親子でクラフト!
12:00	昼食(レストラン)	12:00	昼食(レストラン)
13:00	おもしろ自転車 フィールドアスレチック 保護者交流会	13:00	遊びリンピック
15:00	親子で野外炊事!	14:00	閉会式
19:00	絵本読み聞かせ	14:30	解散・バス送り
20:00	入浴		
22:00	就寝		

#### (2) 活動の状況

##### ① 第1回 令和5年8月6日(日)



【川遊び①】



【川遊び②】



【川遊び③】



【遊びリンピック②】

② 第2回 令和5年11月18日(土)～11月19日(日)



【おもしろ自転車】



【保護者交流会】



【親子で野外炊事！】



【絵本の読み聞かせ】



【親子でクラフト！】



【遊びリンピック】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：87.5% やや満足：12.5%

##### (2) 参加者の声

- ① 普段聞けないことが保護者交流会で聞いていい勉強になりました。ミニゲームもあって、いい親睦が深まりました。
- ② 初体験の薪割や火起こしができて、子供も楽しかったようです。自分ではできないので、体験させてもらえてありがたいです。

##### (3) 成果

- ① 対象を幼児に限定することで、似たような年齢層が集まり、お互いに協力したり、一緒に遊んだりする姿が見られた。
- ② 薪割やバーナーを使った焼き板など、子供には少し難しい活動も含むことで、家族で協力することが出来ているようだった。

##### (4) 今後の課題

- ① 今年度も応募数が募集人数を超えた。需要が供給を大きく上回っているので、多くの希望者にどのような形で体験を提供できるか検討する必要がある。
- ② 子供たちだけで活動するとき、職員の目が行き届かないところまで走って行ってしまうので、できるだけ多くの目を確保することが必要である。
- ③ プログラムにゆとりがあったことで、子供同士、保護者同士が交流できる時間が取れ、緩やかなネットワーク作りができた。

担当：企画指導専門職付 竹井 楓夏

## 令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

### 自然体験フォローキャンプ（生活自立支援キャンプ）

#### 1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

様々な体験をする機会が少ない環境で生活をしている子供たちに、豊かな自然環境の中での活動や体験を通して、自主性、達成感、自己肯定感の向上を図る機会とするとともに、青少年施設での生活を通して、生活リズムの改善、ルールやマナーの習得、仲間と一緒に過ごす中での協調性や相互理解を深める機会とし、更なる生活力の向上を図ることを目的とする。

#### 2. 事業の概要

##### （1）期日

第1回 令和5年7月15日（土）～7月17日（月）

第2回 令和6年2月 3日（土）～2月 4日（日）

##### （2）参加者

第1回 社会福祉法人恵聖会 児童養護施設 玉島学園  
27人（幼児2人、小学生6人、中学生4人、高校生6人、職員9人）

第2回 社会福祉法人恵聖会 児童養護施設 玉島学園  
19人（小学生7人、中学生3人、高校生5人、職員4人）

##### （3）講師

第2回 水野 恵子 氏（絵本専門士）  
蒜山スキー学校

##### （4）企画・運営のポイント

- ① 豊かな自然環境の中での活動ができるように、連携施設（玉島学園）の希望を可能な限り取り入れたプログラム作りを心がけた。
- ② 今後の利用に向けて、研修支援事業の活動プログラムを多く取り入れた。
- ③ より多くの子供たちに自然体験をしてもらうために夏と冬の2回を計画した。
- ④ 所内だけでなく所外の施設も利用することで、多様な体験活動ができるようにした。
- ⑤ 年上の子供が年下の子供の面倒をみる活動や責任をもって行う活動などを取り入れることで、自己肯定感を高められるようにした。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程 第1回

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	7/15 (土)											入所式	アイス ブレイク	夕食	入浴	遊びリン ピック	就寝 準備	就寝
2日目	7/16 (日)	就寝	起床 洗面	朝のつどい 朝食	準備	なぞとき ウォークラリー		昼食		七宝焼き		野外炊事 ツイストケーキ				入浴	就寝 準備	就寝
3日目	7/17 (月)	就寝	起床 洗面	朝のつどい 朝食	準備	点検	カッター活動		昼食	振り返り	退所式							

#### 日程 第2回

2月4日(土)		2月5日(日)	
14:30	入所式・仲間づくり	6:30	起床・洗面・朝食
15:15	野外炊事	7:30	バス移動
18:30	入浴	9:00	準備
19:30	休憩	10:00	スキー教室
20:00	絵本の読み聞かせ	12:00	昼食・雪上体験
21:00	就寝準備	14:30	片付け
22:00	就寝	15:00	バス移動
		16:30	退所式

#### (2) 活動の状況



【第1回：アイスブレイク】



【第1回：遊びリンピック】



【第1回：なぞときウォークラリー】



【第1回：野外炊事】





【第1回：カッター活動】



【第2回：野外炊事】



【第2回：絵本の読み聞かせ】



【第2回：スキー教室】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

第1回 満足：64% やや満足：36%

第2回 満足：95% やや満足：5%

##### (2) 参加者の声

###### ① 第1回

###### ア. 幼児・児童・生徒

a. みんなの見たことない表情を見ることができて、とてもうれしかった。

b. 最初は正直こんなに楽しいとは思っていなく行きたくないと思っていた。初めて国立吉備青少年自然の家にお泊りをしたら楽しかった。スタッフやボランティアの方がとても優しくとても楽しい2泊3日になった。

###### イ. 職員

a. 子どもたちが意欲的に取り組んで、楽しく活動できていた。年長児が年少児の世話をしてくれたので、本当に助かった。

b. 小さい子にも分かりやすく、1つのプログラムの時間もちょうどよい長さで、あきることなく楽しめた。

###### ② 第2回

###### ア. 幼児・児童・生徒

a. 野外炊事はみんなで作ったという達成感があり、よりおいしく感じた。

b. 今回のキャンプを通して、「仲間の大切さ」や「協力の大切さ」などを多く学ばせてもらった。

#### イ. 職員

- a. 雪が積もっているか心配でしたが、雪遊びに行けて良かったです。スキーができない場合も2パターン考えてくださっており、どれも子供たちが楽しめそうだった。
- b. スキーに関して苦手な子も何度もトライしている姿が印象的で、職員さんやボランティアさんが付き添ってくださり、「できなかった」という思い出ではなく「楽しかった！」という思い出で帰れたのは、本当に良かったです。

#### (3) 成果

- ① 研修支援事業の活動プログラムを多く実施したため、活動内容や準備物等を見直すきっかけとなった。
- ② 子供たちにとって普段できないことをたくさん体験することができ、満足してもらうことができた。
- ③ 高校生が小学生の面倒を見るなど、子供たちの園では普段見られない姿を引き出すことができた。
- ④ 職員、法人ボランティアが参加者一人一人に積極的に声をかけたことで、参加者も安心した雰囲気でも過ごすことができた。

#### (4) 今後の課題

- ① 第2回はスキーを計画していたが、暖冬の影響でスキー場がオープンせず開催日ギリギリまで代替案を考えながら実施の判断に悩まされた。
- ② 今後の利用につなげていくために子どもゆめ基金を紹介していく。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克